

内閣府青年国際交流事業に関する 緊急アンケートについて

「青年国際交流事業の効果測定・評価に関する検討会」の議論を受け、実施。
内閣府青年国際交流事業と留学との効果の比較のため、両者の経験がある者に対し、グローバル人材に求められる要素ⁱ等への効果について質問。

調査期間：平成24年7月25日～8月7日

調査方法：メールによる送信、インターネットフォーム及びメールでの回答

送信数：約2,000名 回答数：839名（うち約530名が留学経験ⁱⁱあり）

「著しく大きな効果があった」とする者の割合 （5段階評価の最高評価）

項目	内閣府事業	留学
リーダーシップ	46%	9%
主体性・積極性・チャレンジ精神	64%	40%
集団生活への適応力（協調性・柔軟性）	64%	21%
責任感・使命感	60%	16%
他者・異文化間における調整力	64%	30%
異文化への対応力	70%	45%
日本人としてのアイデンティティ・誇り	70%	35%
コミュニケーション力	54%	45%
語学力	27%	55%
専門的な知識・技能	17%	28%
その後のネットワーク・連絡・連携	68%	14%

ⁱ 政府のグローバル人材育成戦略（平成24年6月4日）では、以下の3つの要素が挙げられている。

要素：語学力・コミュニケーション能力

要素：主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感、使命感

要素：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ

ⁱⁱ 留学は2週間以上の留学を対象。留学期間の平均は10.4か月。